

# 宮崎県水産試験場 100年のあゆみ



「海を拓く！」

宮 崎 県

# 水産試験場の沿革

年度(西暦)	水産試験場の動き
明治 36年(1903)	水産試験場創設 宮崎郡青島村(現在の宮崎市青島)。漁労部、製造部の2部制
明治 37年(1904)	養魚場建設し、養殖部を設置(3部制)
明治 38年(1905)	宮崎町物品陳列場付属運池を水試付属養魚池とする
明治 39年(1906)	折生迫字倉元に養魚池拡張
明治 40年(1907)	漁労部、試験純帆船「高千穂丸」建造(M41.2)
明治 41年(1908)	養殖部、折生迫試験池増設(167坪購入)
明治 42年(1909)	養殖部、都城町下長飯に「第2養魚場」建設、漁業基本調査実施(鯉、鮪、鰻の漁況予報)
明治 43年(1910)	養殖部、富高村大字垣見に第3養魚場を建設
明治 44年(1911)	製造部、細島の県埋立地に細島乾燥場建設、水産試験場を県庁に移転
大正 元年(1912)	漁労部、試験船「笠狭丸」建造(T元.10)
大正 2年(1913)	養殖部、高原村に高原養魚場(虹鱒孵化場)建設
大正 3年(1914)	養殖部、折生迫の養殖池を廃止、下穂北村に妻養魚場建設 製造部、折生迫に貝卸生産販売、購買組合設立 水産試験場、創立10周年記念号発刊
大正 5年(1916)	養殖部、都城及び富高養魚場を民間に譲渡、福田、溜め池で鯉生産額約5,000貫
大正 6年(1917)	水産試験場に調査部を設置し4部制となる、漁労部、試験船「鵬丸」建造(10月)
大正 9年(1920)	漁労部、試験船初代「小鷹丸」建造(T9.10) 製造部、細島乾燥場を廃止、折生迫製造所建設 三馬力石油発動機、蒲鉾・缶詰製造機械
大正 12年(1923)	養殖部、妻養魚場を廃止、赤江養魚場建設移転
大正 15年(1926)	漁労部、試験船「日向丸」建造(S2.3)
昭和 元年(1926)	
昭和 6年(1931)	養殖部、東郷養魚場、美々津養魚場を建設
昭和 8年(1933)	養魚部、諸塚養魚場建設(えのは、虹鱒養殖)、燻製室築造
昭和 12年(1937)	漁労部、試験船「日向丸」改造(S12.4) 水産試験場油津分場を油津町に、土々呂出張所を延岡市土々呂に設置
昭和 13年(1938)	米良養魚場敷地購入
昭和 14年(1939)	米良養殖場設置
昭和 15年(1940)	業務報告書は、戦時中のため昭和15年度より昭和26年度まで発行せず
昭和 16年(1941)	水産試験場を県庁から油津町に移転、油津分場を廃止。土々呂出張所を分場に昇格(淡水部門を系列下に置く)
昭和 19年(1944)	宮崎市恒久に養魚場を新設
昭和 22年(1947)	水産指導所を(淡水部門)を宮崎市恒久に設置 水産試験場と水産指導所を廃止、新たに遠洋(日南市油津)、沿岸(延岡市土々呂)、淡水(宮崎市恒久)の各漁業指導所として発足
昭和 23年(1948)	遠洋漁業指導所「日向丸」、沿岸漁業指導所第2代「小鷹丸」を農林省水産試験場延岡分場に移管 沿岸指導所、試験船初代「しらさぎ」建造
昭和 24年(1949)	沿岸指導所、浦尻真珠養殖場試験室建築(S48.8廃止)
昭和 25年(1950)	沿岸漁業指導所を延岡市土々呂から鯛名町に移転、遠洋漁業指導所を水研油津支所から日南市油津西町に移転 遠洋指導所に漁業練習生制度を設け、生徒募集(漁業科、機関科、無線科) 遠洋漁業指導所、試験船初代「みやざき丸」建造(S26.2)
昭和 27年(1952)	沿岸漁業指導所、缶詰等製造施設を整備
昭和 28年(1953)	小林総合養魚場新設(S31完成) 赤江養魚場を宮崎第1養魚場とし、田吉に宮崎第2養魚場を増設
昭和 29年(1954)	遠洋漁業指導所、取締船「隼」の代船「はやぶさ」建造(S29.8)
昭和 31年(1956)	遠洋漁業指導所、試験船初代「みやざき丸」改造(S31年8月) 淡水漁業指導所小林総合養魚場を小林市西方に設置 沿岸漁業指導所、みさご丸の代船、調査船初代「たちばな」(S31.4)取締船「高千穂」建造(S31.8)
昭和 32年(1957)	淡水漁業指導所、都城市郡元に都城養魚場を新設
昭和 33年(1958)	淡水漁業指導所の諸塚養魚場を廃止 沿岸漁業指導所「真珠養殖研究室」を浦城町に建設、同加工施設に「熱風魚類乾燥施設」を建設
昭和 34年(1959)	遠洋漁業指導所、試験船第2代「みやざき丸」建造(S34.5) 淡水漁業指導所、高千穂養魚場を新設
昭和 36年(1961)	沿岸漁業指導所、作業船「さちかぜ」建造(S36.12)、遠洋漁業指導所、試験船第2代「しらさぎ」建造(S36.9)
昭和 38年(1963)	沿岸漁業指導所、栽培漁業中間育成場並びに飼育実験室新設
昭和 40年(1965)	淡水漁業指導所の高千穂養魚場及び東郷養魚場を各町に移管 沿岸漁業指導所内、土々呂漁業指導用無線局は「島野浦漁業無線局」に吸収合併され閉局
昭和 42年(1967)	沿岸漁業指導所、試験船第2代「たちばな」建造(S43.3)
昭和 44年(1969)	遠洋漁業指導所、試験船第3代「しらさぎ」建造(S44.5)
昭和 45年(1970)	3漁業指導所廃止し、水産試験場を宮崎市青島に新設(管理部、漁業部及び増殖部)、日南分場、延岡分場、小林分場を設置綾試験場開設、試験場内に水産研修館を新設(S46.3)
昭和 47年(1972)	試験船第3代「みやざき丸」建造(S48.3)
昭和 55年(1980)	試験場内に魚病指導総合センターを新設 試験船第3代「たちばな」(S55.5)、漁業取締兼試験船第4代「しらさぎ」建造(S56.3)
昭和 56年(1981)	栽培漁業センターを延岡市熊野江町に新設し、延岡分場を延岡市妙見町から移転 綾試験地を廃止(S57.3)
昭和 57年(1982)	淡水増殖科を小林分場に統合し綾試験地を廃止、かん水増殖科を水産増殖科とし増殖部に養殖魚病科を新設 管理部の庶務係と管理係を統合し管理係とし、漁業第1科と漁業第2科の名称をそれぞれ海洋資源科及び漁業開発科と改め、北浦試験地を廃止
昭和 61年(1986)	試験船第4代「みやざき丸」建造(S62.3)
昭和 62年(1987)	漁業部日南分場を廃止
昭和 63年(1988)	漁業部を漁業加工部(海洋資源科、漁業開発科、食品加工科)に増殖部を増養殖部(生物開発科、栽培漁業科、養殖環境科、小林分場、延岡分場)に改組、水産物加工指導センターを試験場内に設置
平成 2年(1990)	試験場内の増養殖研究施設を増改築
平成 4年(1992)	増養殖部延岡分場を廃止
平成 6年(1994)	小林分場全面建て替え(研究棟、池等新設)(H7.3) 漁業調査船第4代「たちばな」建造(H7.3)
平成 15年(2003)	試験船第5代「みやざき丸」建造(H15.5) 創立100周年を迎える

# 施設の移り変わり



初代試験場  
(M36年)



初代試験場  
玄関 (M36年)



遠洋漁業指導所  
全景 (S35年頃)



淡水漁業指導所  
(S35年頃)



沿岸漁業指導所  
(S42年頃)



遠洋漁業指導所  
正門 (S35年頃)



建設当時の現水産試験場  
(S45年)



建設当時の飼育棟



建設当時の研修館



延岡分場  
(S45年～56年度)



日南分場  
(S45年～62年度)



小林分場  
(S45年～H6年度)  
現施設はH7年度に更新されたもの



米良試験地  
(現在)



綾試験地  
(S50年前半)



魚病指導総合センター  
(S55年)